# 一般質問

## 地球温暖化防止対策について

入内島英明　議員

**質問** 県議会が9月に地球温暖化防止条例を可決したが、市に何らかの連絡は。

**答弁** 現在、具体的な説明等はありませんが、12月に説明会が予定されています。

**質問** 渋川市独自の条例を立案する考えは。

**答弁** 今後、県と連携しながら内容等踏まえ、研究していきたいと考えています。

**質問** 市民に温室効果ガス削減への方法論、協力要請等の情報発信の考えは。

**答弁** 市の広報紙、ホームページ、出前講座等で啓発し情報発信していきます。

### 市営住宅の今後の考え方について

**質問** 市営住宅入居希望待機者は何人いるのか。

**答弁** 市営住宅入居希望待機者数でありますが11月24日現在、71人です。

**質問** 待機者は何年待てば入居できますか。

**答弁** 入居者の都合での退去となるため、正確ではありませんが2年程度です。

**質問** 待機者数から判断すると、市営住宅増設は必要と思うが、建設計画は。

**答弁** 総合計画では、平成25年度以降に市営住宅金井団地を建設予定です。

**質問** 建設計画では、平成25年以降、8億5000万円かけ、3階建て、52戸とのことだが、市内3カ所の雇用促進住宅を、2億2000万円強で譲り受ければ、240戸となり、一石四鳥の利となるが考えは。

**答弁** 老朽化した市営住宅の建て替えの問題、今後の市営住宅への入居需要の見込み等、今後十分検討し、雇用促進住宅を市営住宅として譲り受けるかどうかについて、判断していきたい。

金井雇用促進住宅

# 行政視察報告

## 総務企画　財政健全化などについて

10月13日から15日にかけて、北海道赤平市で財政健全化について、室蘭市で議会中継システムとまちなか再生プランについて行政視察を行いました。

赤平市では、厳しい財政状況を改善するため3度にわたり財政再建プランを策定。税率の改正や使用料・手数料の見直し、補助金や職員の人件費の削減など、市民と一体となっての改革は、赤字額を引き下げる大きな成果を上げていました。

室蘭市では、開かれた市政運営の一環として市議会の映像配信を実施。各家庭等でインターネットを通じて議会が視聴でき、情報公開の実現を図っていました。

また、空洞化の進む既存商業地の活性化のため、まちなか再生プランを策定。商店街の賑わいを取り戻し、住み続けられるふるさとづくりに取り組んでいました。

本市と共通の課題に取り組む両市への視察は、大いに参考になりました。

## 建設水道　伝統的なまちなみ整備など

11月11日から13日までの3日間熊本県山鹿市、大分県日田市について視察研修を行いました。山鹿市については、伝統的建造物を歴史的資源として活用してまちなみ整備事業に取り組んでいます。旧建設省の歴史的地区環境整備街路事業にも指定され、現在も事業は継続中です。八千代座を中心に市の助成と地元住民の理解協力により美しいまちなみが形成されています。

日田市については、都市の再生を図るため都市再生整備計画を策定し、伝統的な町並みや公園等の都市としての施設を整備して中心市街地の各拠点の魅力強化と地域間の回遊促進を図っています。

特に都市再生整備計画の整備方針を定めて、地域の特性を生かした個性ある豊かで魅力ある街づくりを目指しています。目標を定量化する指標を定め、毎年目標値と評価値の違いを検証して改善を図っています。近年は、全国発信のみならず外国にも発信して集客を図り街の活性化に寄与しています。

# 常任委員会の

## 市民経済
### 市民病院の運営などについて

8月19日から21日の日程で、宮崎県綾町、同県えびの市、鹿児島県霧島市に行政視察を行いました。

有機農業の盛んな宮崎県綾町は、昭和63年に全国初の「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、行政・JA・住民が一体となった取り組みが非常に活発でした。土づくりから生産、流通に至るまでのシステムが確立され、いかに維持していくかが今後の課題です。

宮崎県えびの市では、市立病院の運営についてを調査しました。「市民にとって本当に必要とされる市民病院」を目指し、平成15年から病院改革に取り組み、ほぼ5年間で赤字経営から平成19年度には黒字に転換するなど、成果を上げていました。

鹿児島県霧島市では、周辺5市2町共同の「霧島ジオパーク構想」を計画。科学的に重要・貴重で美しい「地質遺産」を保護し、環境施策、観光、地域振興などの資源とするもので、平成22年度認定を目指し取り組みを進めていました。

## 教育福祉
### 子育て支援施策などについて

10月27日から29日まで島根県大田市と山口県下関市の2カ所の行政視察を行いました。

大田市では、平成19年7月に日本で14番目、鉱山・産業遺跡としては初の世界遺産となった石見銀山遺跡に関して、世界遺産登録までの市の体制や活動、石見銀山遺跡の保全・整備、今後の活用など、市を上げて取り組んでいる「石見銀山プロジェクト」について視察しました。

下関市では、下関市次世代育成支援行動計画により取り組んでいる子育て支援施策について視察しました。中でも、親と子が肌のぬくもりを感じながら言葉と心を通わすひとときを絵本を介して持つことを勧める「ブックスタートおはなしの会」や子供とその家族、様々な子育て支援者が共にふれあい語り合う機会をもつ場として、下関市立大学を会場に行っている「ちゃいるどフェスタ」などは、本市の子育て支援事業にも大変参考になりました。

# 議会だよりに市民からのご意見

**要旨**

議会だよりを、楽しみに見ていますが、審議された議案を画一的に紙面に掲載しているだけで、もの足りません。小見出しを付けたり、質疑・答弁はだれがしたか分かるようにするなど、興味を持ってもらう工夫が必要です。一般質問では質問者の顔写真を掲載すれば、議会との距離も近くなります。主な議案の反対・賛成討論の掲載など、議会だよりの充実が議員同士の切磋琢磨につながり、議会のさらなる活性化につながるものと考えます。

（議会だよりの充実を願う一市民より）

**お答え**

ご投稿、ありがとうございます。私ども議会報編集委員会では読者である市民の皆様に「分かりやすく、愛され、親しみのある」市議会だよりを目指し、編集の都度、各委員の活発な議論によって編集し、市議会だよりをお届けしています。各委員会の原稿は、委員会ごとに作成を依頼しています。一般質問については各質問者と当局側で作成します。それ以外については編集委員会で発行の都度担当者を割り振り各委員責任を持ってその任に当たっています。限られた字数のため色々と工夫して提出しています。また限られた紙面で、すべてを市民の人々にお知らせることは不可能と思います。市民の皆様の声が議員を通じて、どのように反映されているのかぜひ議会を傍聴して目と耳で確認して頂ければと思います。議会だよりの一層の充実を目指します。

（議会報編集委員会
委員長　平方　嗣世）

議会報編集委員会